

大雪山登山口バイオトイレの試験設置結果について

荒井修二（北海道環境生活部環境室自然環境課）

登山口バイオトイレの試験設置結果について

試験設置の目的

- ・登山口にトイレを設置することにより、周辺及び山上におけるし尿散乱の改善に対する有効性を検証する。
- ・水や電気の確保が困難な箇所での安価で快適なトイレは何かを検討するため、バイオトイレの有効性を検証する。

1 大雪山トムラウシ短縮登山口：新得町

(1) 設置トイレの概要（買い取り）

- ・トイレ本体～SKML-W50 LOG DX（男女各1穴）

1日当たり男女各100回分の処理に対応

- ・動力源～複合型ソーラー式

オガクズとし尿を攪拌するためのモーター、臭気ファンの電源～ソーラー発電

し尿の分解促進、水分の蒸発促進のための加温～集熱パネルによる給湯加温

(2) 調査結果概要

年度	設置期間	利用回数	トイ ^レ 使用量	オガ ^ク ズ ^ズ 交換	便槽内温度
H14	6/27~10/2 98日間	3,002回	98ロール	なし	平均33
H15	6/12~10/6 117日間	4,224回	117ロール	なし	平均36
合計	延べ 215日間	7,226回	215ロール	なし	

し尿量を推計すると約1,445リットル、ドラム缶で約7本分の処理をしたこととなる。

2 大雪山沼ノ原登山口：上川町

(1) 設置トイレの概要（リース）

- ・トイレ本体～SKML-W25 LOG DX（男女各1穴）

1日当たり男女各50回分の処理に対応

- ・動力源～人力

オガクズとし尿の攪拌～使用者がペダルをこぎ、攪拌

臭気ファンは、風による自然回転式

(2) 調査結果概要

年度	設置期間	利用回数	トイ ^ル 使用量	オガクズ交換	便槽内温度
H14	6/17~10/4 110日間	1,938回	81ロール	なし	平均21
H15	6/10~10/2 114日間	2,554回	75ロール	1回	平均17
合計	延べ 224日間	4,492回	156ロール	1回	

オガクズの交換は、他に紅葉時期前に安全を見込んで1/2交換した。

し尿量を推計すると約898リットル、ドラム缶で約4.5本分の処理をしたこととなる。

3 考察

トムラウシ短縮登山口、沼ノ原登山口の両バイオトイレとも、し尿処理に支障はなく、多くの利用者があったことや周辺のし尿散乱状況が改善されたことから、登山口にトイレを設置することは山岳地の環境改善に有効な一手法であると考えられる。

バイオトイレについては、臭いもなく快適に使用でき、利用者からは好評を得たものの、トイレの使用マナーが悪い状況にあるため、ごみを捨てない、汚した場合は自分で始末するなど最低限のマナーが徹底されるよう、利用者の意識向上を図る必要がある。

また、10日に1回程度清掃を実施したが、汚れたまま放置しておくことと更に汚されることが想定されることから、ボランティアの協力も含め、計画的な清掃が必要である。



トムラウシ短縮登山口（複合型ソーラー式）



沼ノ原登山口（ペダル式）